

2025 年 10 月 1 日

関係各位

公益財団法人日本体操協会
体操競技男子強化本部
審判委員会体操競技男子審判本部

体操競技男子 FIG ニュースレター(NO.2)発行に伴う国内適用について

FIG（国際体操連盟）は2025年9月19日に公式ホームページ上にてニュースレター(NO.2)【2025年9月】を掲載し、2025年版採点規則に関する新しい情報を公開しました。

本情報の内容を強化本部および審判本部で検討し、国内競技会における適用を以下の通りとすることが決定致しました。次頁以降の日本語翻訳版の内容によって適用開始日が異なりますのでご注意ください。

文字の色	内容	国内適用開始日
緑文字	新しい情報	2025 年 11 月 1 日
赤文字	新しい情報	2026 年 1 月 1 日

【原文】 FIG 公式サイト：Men's Artistic Gymnastics News Letter Nr 2 – September 2025 (english)

http://www.fig-docs.com/website/newsletters/MAG/2025/MAG_NL_2_en.pdf



体操競技男子 FIG ニュースレター NO.2 (2025 年9月)【日本語翻訳版】

ローザンヌ(スイス) 2025 年 9 月 19 日

男子体操競技関係者の皆さま

男子技術委員会(MTC)は先日、イタリアのナポリで今年3回目の会議を開催しました。主催していただいたイタリア連盟に感謝申し上げます。私たちの優先事項は、ジャカルタでの世界選手権と、その直後にマニラで開催されるジュニア世界選手権の準備を行うことでした。また、ジャカルタで開催される種目別決勝でのシャドーテストを含む”リアルタイム採点システム”の次の段階についても議論しました。富士通採点支援システム(JSS)に含まれる技の検証を続けました。この会議の結果、いくつかの決定事項があり、これらは直ちに適用されます。

1. 2025 年版採点規則の明確化



Parallel Bars 平行棒



ギャツツン系の技

私たちは、競技の正確性と公平性を確保するために、富士通採点支援システム(JSS)の開発を続けている。システム開発の基本的な部分は、技の正確な成立と認定を明確に定義する「技の認定基準」を確立することである。その例は、[FIG のウェブサイト](#)で見ることができる。

私たちは最近、ギャツツン系の技の基準を設定し、ニュースレター#1 にてこれを伝達したが、さらに明確にしたいと考えた。後ろ振りとび 3/4, 1/1, 3/2 ひねり倒立は、少なくともとび 3/4 ひねりを伴ってから最初の支持手が入らなければならない。とび動作が 3/4 ひねりに満たないギャツツン系の技、例えばパトロン(とび 1/4 ひねりののちに片腕支持で 3/4 ひねり)を実施した場合には、**1つ低い難度で認定される**。同系のすべての技で、明確ではっきりとしたとび動作が要求される。次の表は、ギャツツン系の技番号と技名表記である。

技番号	難度	技名表記
II.81	C	後ろ振りとびひねり倒立
II.82	D	後ろ振りとび 3/4 ひねり単棒倒立
II.87	C	後ろ振りとび 3/4 ひねり単棒倒立(とび動作が 3/4 に満たない)
II.83	E	後ろ振りとび1回ひねり倒立(ギャツツン)
II.88	D	後ろ振りとび1回ひねり倒立(とび動作が 3/4 に満たない)
II.88	D	後ろ振りとび 1/4 逆ひねり単棒倒立経過 3/4 ひねり倒立(パトロン)
II.84	F	後ろ振りとび 5/4 ひねり倒立経過 1/4 ひねり倒立(ギャツツン2)
II.89	E	後ろ振りとび1回ひねり倒立(とび動作が 3/4 に満たない)経過 1/4 ひねり倒立





Horizontal Bar 鉄棒

ロシア式車輪 (1.69)

ロシア式車輪を大逆手車輪とどのように区別するかについて、バーの真上を越える際に要求される肩の角度に着目して明確にしたい。



大逆手でバーの真下を通過する際に、肩が未転位の状態が必要となる。選手はバーの真上でも肩が未転位の状態を維持しなければならない。肩が手の真上に来る位置で、肩から骨盤の上部(水色の線)を通る角度が水平線に対して 60° 以下となるように実施する(写真 1)。この角度(水色の線)が 60° を超えた場合、大逆手車輪として認定する(写真 2)。

ロシア式車輪として認定されるためには、大逆手で身体と肩を開く捌きは、バーの真上での肩角度 60° 以下を満たしてから開始されなければならない。

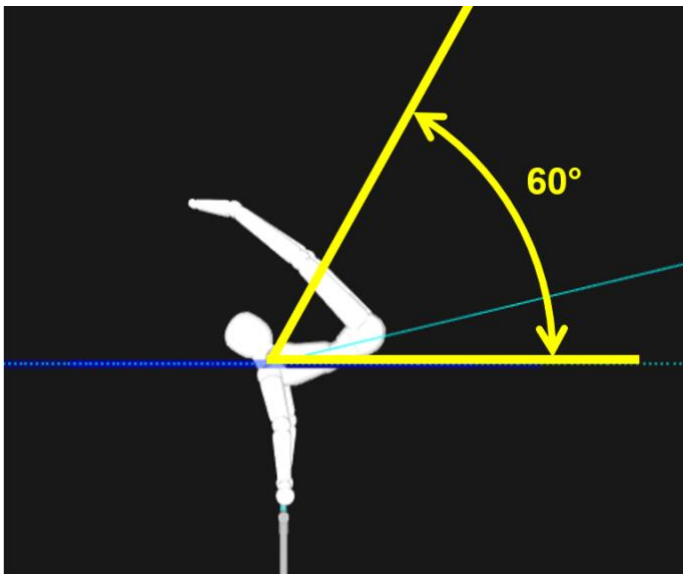


写真 1. ロシア式車輪

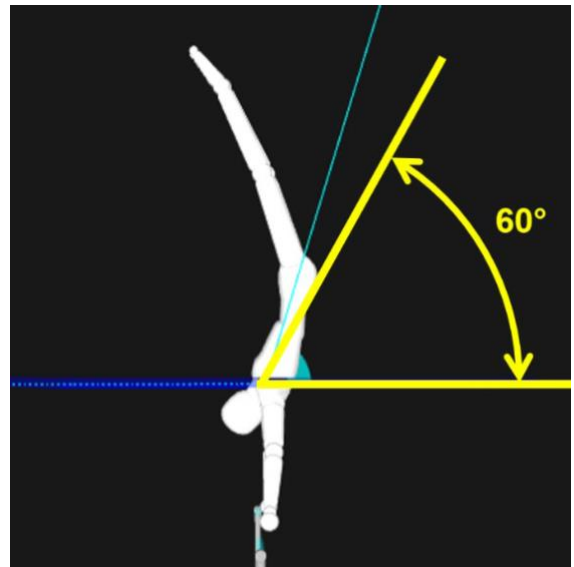


写真 2. 大逆手車輪





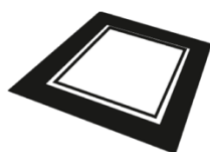
ウィングラー／ポゴレロフ(II.42)

ウィングラーまたはポゴレロフ(II.42)は、身体をまっすぐに伸ばして行わなければならない。手が離れている間に、身体が 45° を超えてまがった場合は、0.50 の減点となり**不認定**となる。

ウィングラー／ポゴレロフには、採点規則上の以下の減点項目が該当する。



欠点	小欠点 0.10	中欠点 0.30	大欠点 0.50
あいまいな姿勢/身体のまがり	30° まで	$>30^\circ \sim 45^\circ$	45° を超える ＝難度不認定
運動面からの逸脱	15° まで	$>15^\circ$	
膝がまがる	●	●	●
足先がまがる	●		
手放し技において雄大性に欠ける	●	●	



Floor Exercise ゆか



ニュースレター#1 の明確化

ゆかに関するニュースレター#1 のすべての項目は直ちに有効となる。

これには以下が含まれるが、これらに限定されるものではない：

- ・片足平均立ち(バランス技)の代替としてリストとして示されたジャンプ／リープを認める。
- ・すべてのコレオグラフィ的なリープ、ジャンプ、ターンは、十分な高さと身体の開きを示す必要があり、そうでない場合は小欠点 0.10 となる。
- ・選手は演技をアクロバットの跳躍技から開始しなければならない
(アクロバット技ではない技からの開始はできない)。

例外として、ニュースレター#1 の2つの項目だけは、**2026 年 1 月 1 日まで適用されない**。

これらは以下の通りである：

- ・コーナーにおける移動はすべて異なる必要がある。
- ・Dスコアを算出する際は(ゆかにおいても)はじめに終末技を数えた後、難度の高い順に7技を数える。





鹿ジャンプ1回ひねり (I.73)

鹿ジャンプ 1 回ひねりは、その要件を満たしてA難度を得るためには、1回ひねりを完全に空中で行わなければならない。空中で 1/2 ひねりした後に片足軸で 1/2 ターンをする鹿ジャンプは、コーナー移動の動きとしては認められるが、ジャンプ／リープの要件を満たさない。



以上

